

## Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成30年 7月～平成30年12月期
- 今期 平成31年 1月～令和元年 6月期
- 来期 令和元年 7月～令和元年12月期

## 1. 景況天気図

### 【業況判断(全体)】

	H31年1～3月期(実績)	H31年4月～R1年6月期(実績)	R1年7～9月期(見込み)	R1年10～12月期(見通し)
全体				
BSI	(▲19.0)	(▲24.2)	(▲23.0)	(▲30.8)

### 【従業者規模別】

	H31年1～3月期(実績)	H31年4月～R1年6月期(実績)	R1年7～9月期(見込み)	R1年10～12月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲37.3)	(▲36.9)	(▲37.6)	(▲42.4)
5人～19人				
BSI	(▲16.5)	(▲24.1)	(▲19.3)	(▲28.5)
20人以上				
BSI	(▲7.0)	(▲14.6)	(▲14.4)	(▲23.6)

### 【業種別】

	H31年1～3月期(実績)	H31年4月～R1年6月期(実績)	R1年7～9月期(見込み)	R1年10～12月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲32.7)	(▲30.5)	(▲33.1)	(▲36.8)
非製造業計				
BSI	(▲15.3)	(▲22.4)	(▲20.1)	(▲29.1)
建設業				
BSI	(▲2.9)	(▲17.0)	(▲16.4)	(▲19.8)
運輸・通信業				
BSI	(▲5.5)	(▲16.7)	(▲13.5)	(▲19.9)
卸・小売業				
BSI	(▲27.8)	(▲35.0)	(▲29.4)	(▲50.0)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲36.8)	(▲31.6)	(▲26.3)	(▲43.1)
サービス業				
BSI	(▲14.2)	(▲17.9)	(▲18.5)	(▲22.2)

### 【凡例】

天気マーク						
BSI水準	(30.1～)	(10.1～30.0)	(▲10.0～10.0)	(▲10.1～▲30.0)	(▲30.1～▲50.0)	(▲50.1～)
矢印マーク						
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少				

## 2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」については、平成31年1～3月期は30年10～12月期から悪化し、続く31年4月～令和元年6月期も悪化が続いた。足元の令和元年7～9月期は31年4月～令和元年6月期からわずかながら改善する見込みであるが、先行きの令和元年10～12月期は同7～9月期から再び悪化する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも低下し、「資金繰り」も悪化した。在庫では「製・商品在庫」は過剰幅が拡大したものの、「原材料在庫」は縮小した。価格では「仕入価格」は低下した一方、「販売価格」は上昇した。雇用では「所定外労働時間」、「一人当たり人件費」はともに低下した。

経営上の問題については、「人材不足」の割合が最も高く、以下「労働力不足」、「生産・受注・売上げ不振」、「人件費の増加」と続いている。

業界の動向としては、販路開拓による受注増加などから業況が改善したとの声がある一方、人手不足による受注への対応力の低下や人件費の増加などによる採算悪化、消費税率引き上げ後の業況悪化を懸念する声が多数みられた。

## 3. 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表

1. 業況 P. 12～	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲19.0と、30年10～12月期の▲14.8から4.2ポイント悪化した。続く31年4月～令和元年6月期は▲24.2と、31年1～3月期からさらに5.2ポイント悪化した。</li> <li>足元の令和元年7～9月期は▲23.0となり、31年4月～令和元年6月期から1.2ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲30.8と、同7～9月期から7.8ポイント悪化する見通しとなっている。</li> </ul>
2. 生産・売上 P. 20～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲15.8と、前期（▲9.9）から5.9ポイント低下した。来期は▲21.2と、今期からさらに5.4ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
3. 受注 （製造業・建設業のみ） P. 25～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲21.2と、前期（▲7.8）から13.4ポイント低下した。来期は▲25.3と、今期からさらに4.1ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
4. 出荷 （製造業のみ） P. 28～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲25.2と、前期（▲11.6）から13.6ポイント低下した。来期は▲28.4と、今期からさらに3.2ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は▲25.8と、前期（▲12.0）から13.8ポイント低下した。来期は▲27.4と、今期からさらに1.6ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
5. 在庫水準 （原材料在庫は製造業のみ） P. 33～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は3.1と、前期（1.4）から1.7ポイント上昇した。来期については1.3と、今期から1.8ポイント低下し適正化が進む見込みとなっている。</li> <li>今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.6と、前期（4.6）から3.0ポイント低下した。来期は0.5と、今期から1.1ポイント低下し、さらに適正化が進む見込みとなっている。</li> </ul>
6. 価格 P. 41～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は29.2と、前期（31.8）から2.6ポイント低下した。来期については29.1と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は5.2と、前期（0.4）から4.8ポイント上昇した。来期は5.2と、今期から横ばいで推移する見込みとなっている。</li> </ul>
7. 資金繰り P. 51～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲13.7と、前期（▲12.2）から1.5ポイント悪化した。来期は▲16.1と、今期からさらに2.4ポイント悪化する見込みとなっている。</li> </ul>

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の雇用BSI（正社員の数）（「増加」－「減少」）は1.0と、30年度（▲2.4）から3.4ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じる見込みとなっている。令和2年度は3.3と、令和元年度からさらに2.3ポイント上昇する見通しとなっている。</li> <li>令和元年度の臨時・パート社員等の雇用BSI（「増加」－「減少」）は1.8と、30年度（▲0.8）から2.6ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じる見込みとなっている。令和2年度は0.9と、令和元年度とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。</li> <li>今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲12.0と、前期（▲4.8）から7.2ポイント低下した。来期は▲12.5と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の一人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は25.4と、前期（28.7）から3.3ポイント低下した。来期は23.9と、今期からさらに1.5ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲7.4と、前期（▲5.4）から2.0ポイント低下し、不足幅が拡大した。来期は▲10.5と、今期からさらに3.1ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の営業用設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲3.9と、前期（▲1.8）から2.1ポイント低下した。来期は▲4.3と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は26.2%と、30年度の実績（26.0%）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。令和2年度（計画）は15.9%と、元年度から10.3ポイント低下する見通しとなっている。</li> <li>令和元年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が56.7%と最も高く、次いで「生産能力増大の為の機械・設備導入」（22.2%）、「店舗・工場等の新設・増改築」（19.7%）などとなっている。</li> </ul>
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営上の問題（複数回答）については、全体では「人材不足」（48.5%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（35.2%）、「生産・受注・売上げ不振」（30.9%）、「人件費の増加」（29.5%）と続いている。</li> </ul>

<p>4. 業種別 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲32.7と、30年10～12月期（▲13.3）から19.4ポイント悪化したが、続く31年4月～令和元年6月期は▲30.5と、31年1～3月期から2.2ポイント改善した。足元の令和元年7～9月期は▲33.1と、31年4月～令和元年6月期から2.6ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲36.8と、同7～9月期からさらに3.7ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲27.9と、前期（▲12.4）から15.5ポイント低下した。来期は▲33.7と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲27.4と、前期（▲9.6）から17.8ポイント低下した。来期は▲25.3と、今期からやや上昇する見込みとなっている。</li> <li>今期の製・商品在庫BSIは▲1.0と、前期（1.3）から2.3ポイント低下し、7期ぶりに不足超となった。来期は▲1.6と、今期とほぼ同水準で推移する見込みである。</li> <li>今期の仕入価格BSIは36.9と、前期（41.9）から5.0ポイント低下した。また、販売価格BSIは1.6と、前期（0.0）からわずかに上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲21.0と、前期（▲11.6）から9.4ポイント悪化した。来期は▲22.1と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は33.1%と、前年度（32.0%）から1.1ポイント上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「生産・受注・売上げ不振」（40.5%）と「人材不足」（40.0%）の割合が高く、続いて「仕入価格の上昇」（38.4%）となっている。</li> </ul>

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲15.3と、30年10～12月期（▲15.1）とほぼ同水準で推移したが、続く31年4月～令和元年6月期は▲22.4と、31年1～3月期から7.1ポイント悪化した。一方、足元の令和元年7～9月期は▲20.1と、31年4月～令和元年6月期から2.3ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲29.1と、同7～9月期から9.0ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲12.5と、前期（▲9.2）から3.3ポイント低下した。来期は▲17.6と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは27.1と、前期（28.7）から1.6ポイント低下した。一方、販売価格BSIは6.3と、前期（0.5）から5.8ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲11.7と、前期（▲12.4）とほぼ同水準で推移した。来期は▲14.5と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は24.1%と、前年度（24.2%）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（50.9%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（38.0%）、「人件費の増加」（29.4%）と続いている。</li> </ul>
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲2.9と、30年10～12月期（▲5.9）から3.0ポイント改善したが、続く31年4月～令和元年6月期は▲17.0と、31年1～3月期から14.1ポイント悪化した。足元の令和元年7～9月期は▲16.4と、31年4月～令和元年6月期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲19.8と、同7～9月期から3.4ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲11.3と、前期（▲6.5）から4.8ポイント低下した。来期は▲19.2と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲14.7と、前期（▲5.4）から9.3ポイント低下した。来期は▲25.5と、低下が続く見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは27.1と、前期（29.7）から2.6ポイント低下した。一方、販売価格BSIは0.0と、前期（▲4.3）から4.3ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲11.8と、前期（▲3.2）から8.6ポイント悪化した。来期は▲14.1と、さらに悪化する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は23.6%と、前年度（20.8%）から2.8ポイント上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（65.0%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（52.5%）、「生産・受注・売上げ不振」（30.5%）と続いている。</li> </ul>
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲5.5と、30年10～12月期（▲3.5）から2.0ポイント悪化し、続く31年4月～令和元年6月期は▲16.7と、31年1～3月期から11.2ポイント悪化した。足元の令和元年7～9月期は▲13.5と、31年4月～令和元年6月期から3.2ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲19.9と、同7～9月期から6.4ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲3.2と、前期（0.0）から3.2ポイント低下した。来期は▲5.6と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは26.2と、前期（29.6）から3.4ポイント低下した。また、販売価格BSIは7.1と、前期（11.8）から4.7ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲7.1と、前期（▲5.6）から1.5ポイント悪化した。来期は▲9.5と、さらに悪化する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は29.5%と、前年度（30.4%）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（53.2%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（38.1%）、「人件費の増加」（24.6%）と続いている。</li> </ul>

非 製 造 業	卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲27.8と、30年10～12月期（▲26.0）から1.8ポイント悪化し、続く31年4月～令和元年6月期は▲35.0と、31年1～3月期から7.2ポイント悪化した。足元の令和元年7～9月期は▲29.4と、31年4月～令和元年6月期から5.6ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲50.0と、同7～9月期から20.6ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲19.0と、前期（▲19.1）とほぼ同水準で推移した。来期は▲27.8と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは30.1と、前期（28.8）から1.3ポイント上昇した。また、販売価格BSIは13.5と、前期（0.0）から13.5ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲13.5と、前期（▲21.3）から7.8ポイント改善した。来期は▲17.4と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は20.4%と、前年度（19.6%）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（47.6%）の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」と「競争の激化」（同率36.5%）、「仕入価格の上昇」（35.7%）と続いている。</li> </ul>
	飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲36.8と、30年10～12月期（▲37.6）とほぼ同水準で推移し、続く31年4月～令和元年6月期は▲31.6と、31年1～3月期から5.2ポイント改善した。足元の令和元年7～9月期は▲26.3と、31年4月～令和元年6月期からさらに5.3ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲43.1と、同7～9月期から16.8ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲20.0と、前期（▲12.0）から8.0ポイント低下した。来期は▲22.1と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは49.4と、前期（47.8）から1.6ポイント上昇した。また、販売価格BSIは10.5と、前期（0.0）から10.5ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲24.2と、前期（▲26.5）から2.3ポイント改善した。来期は▲25.2と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は27.4%と、前年度（32.0%）から4.6ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の上昇」（58.9%）の割合が最も高く、以下「人件費の増加」（40.0%）、「人材不足」と「生産・受注・売上げ不振」（同率38.9%）と続いている。</li> </ul>
	サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>31年1～3月期の業況判断BSIは▲14.2と、30年10～12月期（▲11.2）から3.0ポイント悪化し、続く31年4月～令和元年6月期は▲17.9と、31年1～3月期からさらに3.7ポイント悪化した。足元の令和元年7～9月期は▲18.5と、31年4月～令和元年6月期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。先行きについてみると、令和元年10～12月期は▲22.2と、同7～9月期から3.7ポイント悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲11.8と、前期（▲9.4）から2.4ポイント低下した。来期は▲14.8と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは12.4と、前期（16.2）から3.8ポイント低下した。一方、販売価格BSIは4.3と、前期（▲2.5）から6.8ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲6.2と、前期（▲11.3）から5.1ポイント改善した。来期は▲9.9と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>令和元年度における設備投資の実施事業所割合は21.7%と、前年度（22.5%）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（43.2%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」と「人件費の増加」（同率28.4%）、「生産・受注・売上げ不振」（24.1%）と続いている。</li> </ul>